

＜視点1＞【安全・安心に学べる学校】										
具体的な取組	アンケート結果					自己評価	成果と課題及び分析	改善策		
ア いじめ・不登校のない学校づくりの推進 ・生徒会を中心に主体的な活動によるいじめのない学校づくり ・生徒理解の会・アンケート(毎月)、Q-U調査(年2回)の実施と早期対応	生徒	学校は楽しい。	98%	➡	a	4	A ↓ A	○「学校は楽しい」と感じる生徒の割合は98%である。保護者も90%が「子どもが楽しそうに学校に行っている」と感じている →生徒会活動等の主体的なイベントなど充実した取組を行うことができたからではないか。 ▲「自分にはよいところがある」と回答した生徒の割合は73%と減った。→学校行事や部活動、授業などで「できた」「周囲から認められた」と感じる経験が少なかったのではないか。 ○「学校のきまりを守って、生活している」と感じる生徒の割合は100%になり、学校のきまりを理解し、安全に生活しようとしている。 ○保護者「学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいると思いますか。」が90%となった。 →計画的に、いじめの未然防止に努めているが、これまでの人間関係が改善されていない部分がある。(生徒アンケート、保護者アンケート、個人面談、SCとの連携) ○避難訓練を計画的に行い、その際に危機管理マニュアルを定期的に確認することができた。	・生徒会活動や各種行事等で、生徒中心の活動を継続的に実施し、振り返り等で、互いのよさや頑張りを認める活動を行っていく。 ・関わっている全教員がそれぞれ、生徒のがんばりやできていることをその場で褒めて認めていく。 ・グループエンカウンター等、SCと連携しながら、お互いに自分のよさを認め合う活動を計画的に取り入れていく。 ・今後も、定期的に教育相談を継続して行い、生徒一人一人の困り感を把握し対応していく。	
	保護者	お子さんは、「楽しそうに学校に行っている」と思いますか。	90%	➡	a	4				
	生徒	困っている友だちがいたら、助けてあげようとしている。	100%	➡	a	4				
	生徒	自分にはよいところがある。	73%	↓	c	2				
イ 安全教育の充実 ・危機管理マニュアルの共通理解・改善 ・計画的な避難訓練等防災教育の実施 ・安全点検(毎月15日)の確実な実施と早期改善	保護者	学校は、親切・思いやりの心を育てようとしていると思いますか。	96%	➡	a	4				
	生徒	学校のきまりを守って、生活している。	100%	➡	a	4				
	教員	学校は、生徒が学校のきまりを守り、安全に生活できるよう指導している。	100%	➡	a	4				
	生徒	みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	100%	➡	a	4				
ウ 道徳教育の充実 ・特別の教科道徳を要とした道徳教育の推進 ・指導方法の改善と評価の工夫	保護者	学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいると思いますか。	90%	➡	a	4				
	先生は、子ども達のことをよく理解しようとしていると思いますか。	98%	➡	a	4					
	エ 体力の向上 ・「体力アップ1校1プラン」の実施(各個人の目標を持たせる)	教員	学校は、生徒同士のよりよい人間関係づくり(いじめ・不登校の未然防止)に努めている。	100%	➡	a	4			
		学校は、生徒の小さな変化に気づいたときには、すぐ行動している。	100%	➡	a	4				
オ 学校給食を核とした「食育」の推進 ・食教育の実践及び行事や季節に関連した給食の実施 ・食物アレルギーへの組織的な対応		保護者	学校は、生徒の安全を守るために努力していると思いますか。	96%	➡	a	4			
		教員	学校は、定期的に危機管理マニュアルを確認して行動している。	100%	➡	a	4			

＜改善策＞

- 生徒中心の活動と相互評価場面
- 自己肯定感を高める取組
- SCと連携した取組
- 定期的な教育相談の継続

3.9

＜視点2＞【確かな学びを保障する学校】									
具体的な取組	アンケート結果					自己評価	成果と課題及び分析	改善策	
ア 松波中スタンダードの実践と改善 ・計画に沿った確実な指導と、実践に基づいた計画への改善	生徒	授業の内容はよくわかる。	96%	➡	a	4	B ↓ B	○96%の生徒が「授業の内容はよくわかる」と回答した。 ▲「お子さんは、授業の内容がよくわかると感じている」と回答した保護者の割合が69%にとどまっている。 →生徒と保護者の回答に大きな差がある。生徒が授業中の理解を基に回答しているのに対し、保護者は家庭学習の様子やテスト結果などを踏まえて判断しているためと考えられる。 ○93%の生徒が「授業の課題に対して、自分の言葉で書いたり伝えたりした。」と回答している。 →各教科で自分の考えを書く活動や伝え合う活動を継続的に取り入れてきたことに加え、学校研究で重点としている「自ら考え行動・発信し、よりよく課題解決できる生徒の育成」を意識した授業改善が、生徒の主体的な表現につながっているためと考えられる。	・相互参観等を通して研究を進め、授業改善を図る。 ・各教科のコンテストに向けて、小テストなど段階的に取り組む学習を進め、確実に基礎基本の定着を図っていく。 ・授業での見取りやテスト、コンテストの取組状況や結果等に基づき、苦手な生徒に対して、個別指導を行う。
	生徒	失敗してもあきらめずに、粘り強く取り組もうとしている。	87%	➡	b	3			
イ 学力向上ロードマップ・プランに基づく学力向上の取組推進 ・対話的で深い学びへの授業改善 ・シンプルな学校研究の推進 ・家庭学習の量と質の改善 ・家庭と連携した基本的生活習慣への改善	保護者	お子さんは、授業(勉強)の内容がよくわかると感じていますか。	69%	➡	d	1			
	教員	私は、個々の習熟の状況に応じて、補充的・発展的な指導を行っている。	100%	➡	a	4			
ウ 授業力向上の取組推進 ・1人年2回以上の公開授業及び研究授業の実践 ・指導技術の系統化 ・ICT機器の効果的活用	教員	私は、分かりやすい授業となるよう、ICT機器(モニター・タブレット等)の効果的な活用に努めている。	100%	➡	a	4			
	生徒	自分の考えを根拠や理由をつけて伝えた。	84%	➡	b	3			
エ 海洋教育の推進 ・「海洋教育推進事業」の計画的な実施 ・SDGsを意識した体験活動の推進	教員	私は、言語活動を重視し、生徒に説明・記述させる授業への改善をすすめている。	100%	➡	a	4			
	生徒	授業の課題に対して、自分の言葉で書いたり伝えたりした。	93%	➡	a	4			
オ 特別支援教育の推進 ・専門相談員等の活用 ・校内支援委員会の定期的開催	生徒	毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる。(1年60分、2年70分、3年80分)	60%	➡	d	1			
	保護者	お子さんが家庭学習に取り組む姿は、十分だと感じていますか。	57%	↑	d	1			
	教員	私は、普段の家庭学習の量や質が改善するように指導している。	100%	➡	a	4	B ↓ B	▲「毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる。」と回答した生徒の割合60%と低い結果であった。 ▲「お子さんが家庭学習に取り組む姿は、十分だと感じていますか。」と回答した保護者は42%から上昇したが、依然57%と低い結果であった。 →学習内容の定着や主体的な学びにつなげるため、家庭学習の目的を生徒に理解させるとともに、家庭で取り組みやすい課題の工夫や学習計画の立て方の指導、家庭との連携を継続していく必要がある。 ○生徒自身の五定点意識は維持、保護者の認識は改善してきている。 →学校での生活習慣指導や家庭との連携により、生徒の生活状況に対する認識が共有されてきている。 ▲生徒がインターネット(スマホ)を使用している時間が長いという結果であった。 →家庭学習に取り組む時間やインターネットを使用する時間、五定点を守って生活することは、成績や健康と密接な関係がある。自律的な家庭生活の改善に向けた指導を、家庭と連携しながら引き続き行っていく必要がある。	・家庭学習に取り組む必要性や取り組み方、生活時間の調整(インターネットとのつき合い方等)について、自己指導能力の育成を意識して、保護者とも連携しながら具体的な指導をすすめる。 ・非行被害防止講座では、「インターネットの家庭でのルール」を見直しを呼びかけた。インターネットの使用時間について、各家庭で守っていけるように、家庭と連携しながら引き続き指導していく。さらに、学校で取り組んだ内容を学年だより等で紹介し、保護者と共有していく。
	生徒	五定点を守って生活している。(起床・朝昼夕食・就寝の時刻)	78%	➡	c	2			
	保護者	お子さんは、生活リズムを意識して過ごしていますか。	71%	➡	c	2			
	教員	学校は、五定点を守った生活となるよう指導している。(起床・朝昼夕食・就寝の時刻)	100%	➡	a	4			
	生徒	家で、インターネットは1日にどれくらい使っていますか。(A:1時間未満 B:1時間～1.5時間未満 C:1.5時間～2時間未満 D:2時間以上)	38%	↓	d	1			
	保護者	お子さんは、インターネットの使用についての「家庭のルール」を守っていますか。	61%	↑	d	1			
	教員	学校は、ネット利用のきまりの必要性や守ることの大切さを指導している。	100%	↑	a	4			
	生徒	学校では、生徒同士でお互いのがんばりを認め合う場面がある。	93%	➡	a	4			
	生徒	先生はがんばったことをほめたり、認めたりしてくれる。	96%	➡	a	4			
	教員	生徒ががんばったことをほめたり、認めたりしている。	100%	➡	a	4			
	保護者	学校は、お子さんのがんばったことをほめたり、認めたりしていると思いますか。	94%	➡	a	4			

3.0

＜視点3＞【職員が協働し高めあい確かな指導力を育成する学校】									
具体的な取組		アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析		改善策
ア 業務改善の取組推進 ・校務分掌の明確化、平準化と効率的な取組への改善 ・事案決定システムの改善 ・定時退校日（毎週水曜日） ・最終退校時刻（午後7時） イ 若手早期育成プログラムの実施 ・計画的な実施と内容の改善 ウ 服務規律の向上に向けた取組推進 ・日常的な服務規律に関する具体的な指導と徹底	教員	学校は、教育目標を具現化して、教育活動に取り組んでいる。	100%	➡	a	4	A ↓ A	▲「私は、業務の効率化をすすめ、午後7時までに退校するよう努めている。」と回答した教職員の割合が70％から78％となったが、2割の教職員が達成できていない。 →担当業務や学校行事等による業務量の偏りが要因として考えられる。今後も業務の精選や平準化を進め、組織的な協力体制の充実を図ることで、教職員がより働きやすい環境づくりを推進していく必要がある。	・学校と教師の業務の3分類を踏まえて、見直しをし、業務の精選を図る。また、業務に優先順位をつけて、見直しをもって取り組めるような声掛けをする。 ＜改善策＞ ○業務の精選と効率化 ○定時退校日の実施 ○退校目標時刻の明確化
	教員	学校は、PDCAサイクルを回した業務となるように努めている。	91%	👉	a	4			
	教員	校内・校外の研修に積極的に参加し、教師としての力量が高まるよう努めている。	100%	➡	a	4			
	教員	私は、業務の効率化をすすめ、午後7時までに退校するよう努めている。	82%	👆	b	3			

＜視点4＞【地域社会の一員として信頼される学校】									
具体的な取組		アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析		改善策
ア「地域学習」の充実 ・公民館等の地域と連携した体験活動の推進 ・まちの先生を活用した教育活動の企画と実施 イ 家庭や地域とのコミュニケーションの促進 ・定期的な学校公開 ・学校評価、学校関係者評価の実施と活用の充実 ・学校だより等の配布、HPIによる情報発信	生徒	家族や地域の人に、自分からすすんであいさつをしている。	98%	➡	a	4	A ↓ A	▲「お子さんは、すすんであいさつができていますか。」と回答した保護者の割合が減った。 →生徒と保護者の回答に差がある。学校内外での挨拶の様子に、差があると考えられる。 ○地域やふるさとに関連する項目は、生徒・保護者とも肯定的回答が増えている。 →道徳や総合的な学習の時間を通して、地域のよさやふるさと学習を計画的に行ってきたからではないか。 ○保護者は、「学校からの各種便りやホームページでの情報発信は十分である」と感じている。	・生徒会挨拶運動やグッドマナーキャンペーンなどを実施する際は、挨拶の意義についても引き続き指導していく。 ・すすんで挨拶できている生徒を全職員で認めて、褒めていく。 ・挨拶をしているとは、どのような姿かを話し合い、共通理解する。 ・海洋学習と合わせて、道徳や総合的な学習を中心に、地域学習としての意識づけや意義などを指導してから取り組むだけでなく、事後指導も確実に行っていく。 ＜改善策＞ ○挨拶の意義についての指導 ○地域のゲストティーチャーのお話や体験活動での地域学習の意識付け
	保護者	お子さんは、すすんで挨拶ができていますか。	88%	👉	b	3			
	生徒	地域やふるさとについての学習に積極的に取り組んでいる。	82%	👉	b	3			
		地域の出来事に関心がある。	82%	👉	b	3			
	保護者	お子さんは、地域のよさや大切さを感じていますか。	92%	👉	a	4			
		学校は、地域と連携した体験活動にすすんで取り組んでいると思いますか。	96%	➡	a	4			
	教員	地域の教材・人材を計画的に授業に取り入れている。（予定である）	100%	➡	a	4			
	保護者	学校は、保護者との連絡を密にしていますか。	96%	➡	a	4			
		学校からの各種便りやホームページでの情報発信は、十分ですか。	98%	➡	a	4			
	教員	学校は、地域・保護者へ、積極的に情報発信を行っている。	100%	➡	a	4			

ご意見やご要望(自由記述)

・「よくわからない」の回答欄がほしいです。

・いつも娘の気持ちに寄り添っていただきありがとうございます。 またよろしく願い致します。

3.7

👉

5%以上増えている

👆

10%以上増えている

👉

5%以上減っている

👇

10%以上減っている

＜アンケート集計から自己評価までの流れ＞

① アンケート結果から、それぞれの項目をa～dの4段階に評価する

「そう思う」＋「だいたいそう思う」が90%以上 ⇒a

「そう思う」＋「だいたいそう思う」が80%以上 ⇒b

「そう思う」＋「だいたいそう思う」が70%以上 ⇒c

「そう思う」＋「だいたいそう思う」が70%未満 ⇒d

② ①の4段階の評価を、a＝4 b＝3 c＝2 d＝1とし、平均を出す

③ 以下の基準で平均値から自己評価を行う

平均が3.5以上 ⇒A

平均が3.0～3.4 ⇒B

平均が2.3～2.9 ⇒C

平均が2.3未満 ⇒D

第1回 学校評議員会・学校関係者評価委員会 ご意見（令和8年8月20日）

①評価結果の捉え方と今後の対応

・アンケート結果を、4段階評価のみで判断するのではなく、たとえ肯定的評価が90%でも、残り10%への対応を考えていく必要がある。

②主体的な家庭学習の定着に向けた手立て

・家庭学習について、提出しなければならないという意識はあるものの、自分に必要な学習を主体的に考えて取り組む姿勢には十分につながっていない。他者との比較ではなく、これまでの自分との比較を通して、目的意識や目標を持たせる指導や声掛けを大切にしてほしい。

③SNS等の適切な利用と家庭での役割

・生徒にとってSNS等の使用時間を自分でコントロールすることは難しく、家庭学習を含めた行動の優先順位を意識できていない傾向がある。しなければならないことを見極め、ねばり強く努力できる生徒の育成が求められる。また、SNSの使用時間と学力の定着率は、相関関係が見られるが、生徒自身の自律だけに委ねるのではなく、保護者からも「学習することの意味や大切さ」を根気強く伝えていく必要がある。

④学校統合や進学に向けた配慮

・1・2年生が、来年度に能都中学校へスムーズに統合できるように、学習面、生活面、精神面でのきめ細やかな配慮に努めてほしい。